

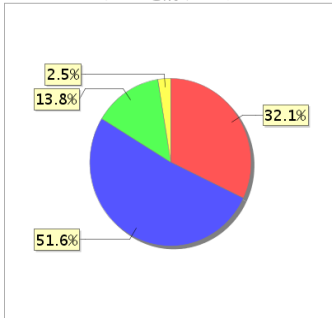
後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和3年度後期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

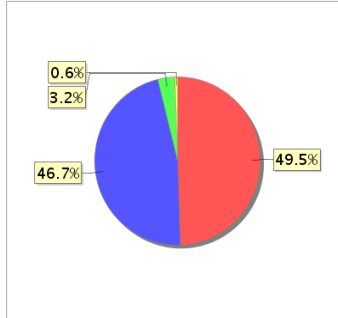
□ 講義系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた ● あまりできなかった ● 全くできなかった

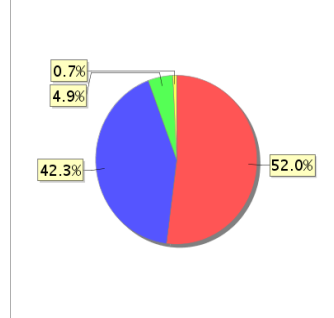
シラバスを読みましたか



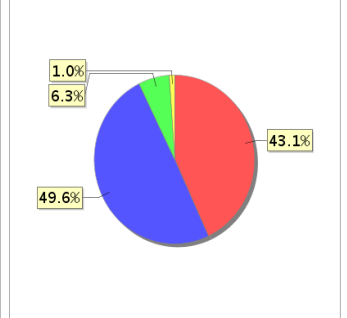
シラバスにそっていましたか



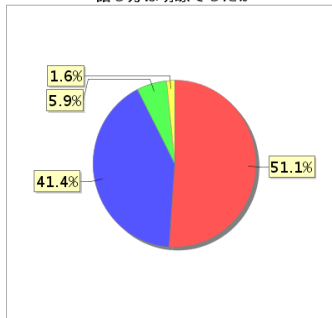
知識・見方を学びましたか



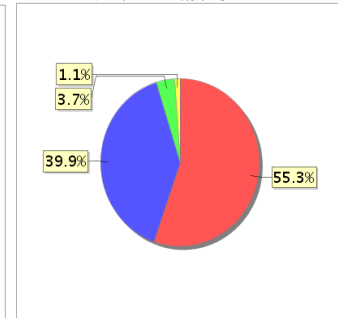
理解できましたか



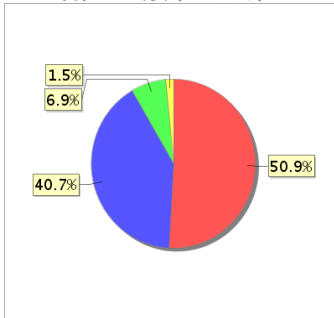
話し方は明瞭でしたか



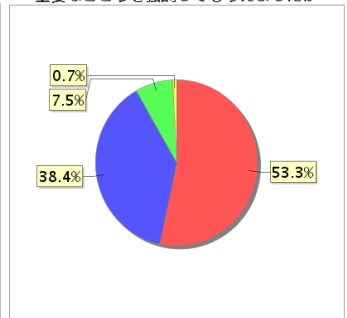
テキストなどは効果的でしたか



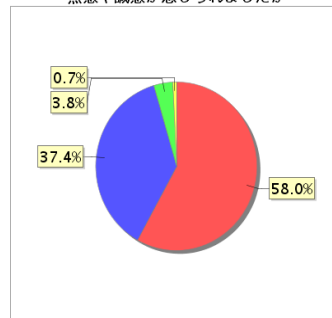
文字などは見やすかったですか



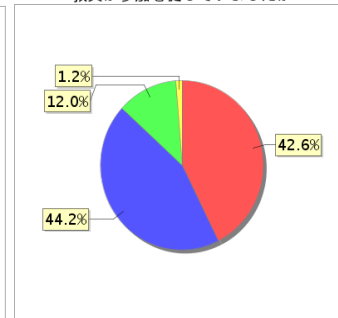
重要などを強調してもらえましたか



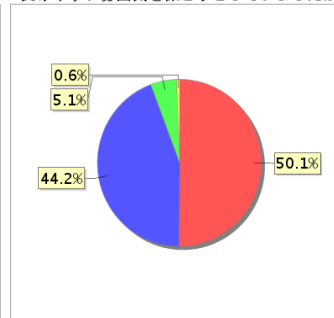
熱意や誠意が感じられましたか



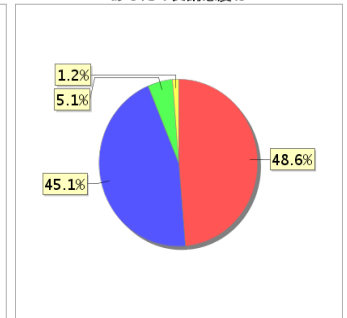
教員が参加を促していましたか



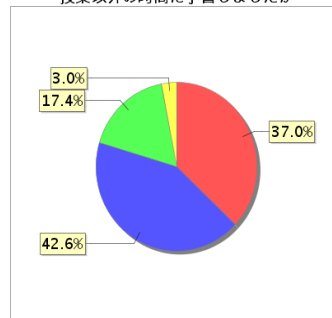
受けやすい雰囲気を保とうとしていましたか



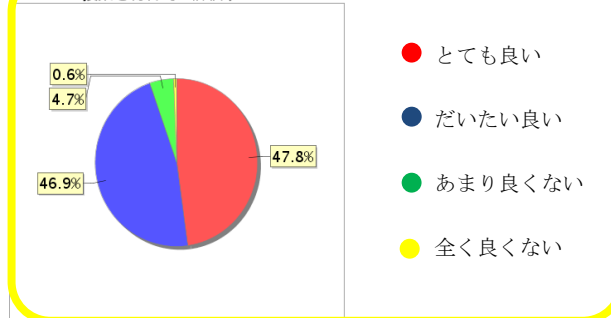
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか

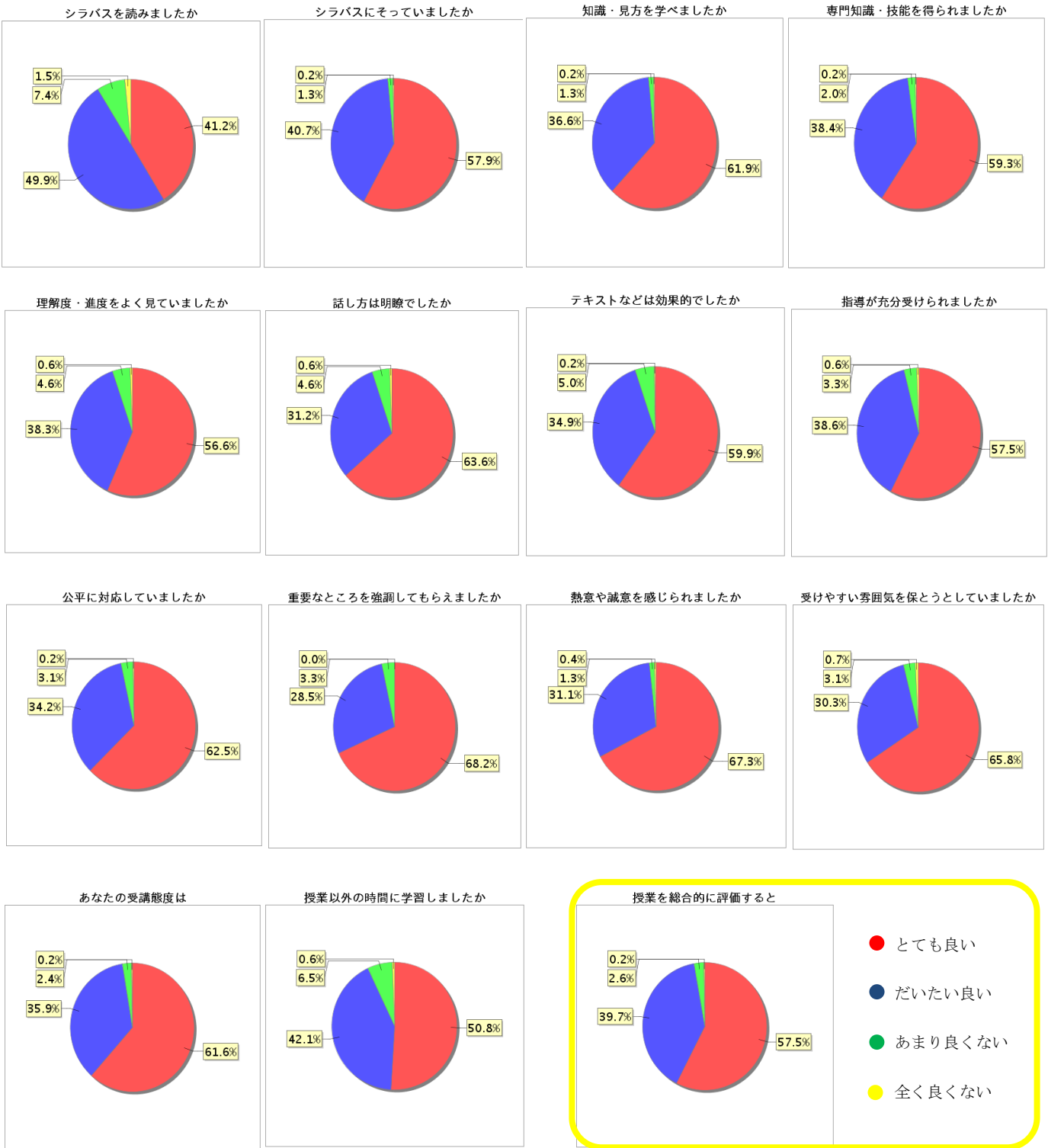


授業を総合的に評価すると



□ 実技系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた ● あまりできなかった ● 全くできなかった



<今回の結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 94.7 %、実技系 97.2%となっており、今年度前期の講義系 97.3%、実技系 98.2%に比べるとわずかに低くなりましたが、大変多くの授業で肯定的な評価を得ています。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 93.7%、実技系で 97.5%と、多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 94.3%、実技系で 97.7~98.5%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、92.7%の人は授業内容を概ね理解できています。

講義系の“授業以外の学修”については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人が 79.6%と他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。今後も授業時間外の学修の定着に向けた教員からのさらなる働きかけが重要であると思われます。「シラバスを読んだ」学生についても以前には課題となっていたのですが、ここ数年で改善しており、講義系で 83.7% (今年度前期 89.8%)、実技系で 91.1% (今年度前期 92.1%) となっています。授業を受ける前に授業目標や到達指標、授業内容を把握して取り組むことや、小テストの実施やレポートの提出などを踏まえ、学修計画を立てて取り組むことは、学修成果の向上にもつながります。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 91.6~95.2% (今年度前期 94.0~96.6%) で、学生にとって概ね満足度の高い授業であったと思われます。実技系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「十分な指導」「公平な対応」「重要なところの強調」も 94.8~96.7% (今年度前期の 95.0~98.5%) と概ね高評価を得ています。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「受けやすい雰囲気」等の学生への働きかけについては、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人が講義系で 86.8~95.4% (今年度前期 92.3~98.0%) と特に「参加の促し」で評価が低くなっています。実技系では 96.1~98.4% (今年度前期 97.6~98.5%) と概ね肯定的評価を得ました。今回授業評価の対象となった科目は、これまでと同じく各学科の常勤・非常勤の教員の担当によるもので、これらの授業の受講学生の約 9 割以上から肯定的な評価が得られたことは、本学教員による教育の質の全体的な高さを示すものです。教員が熱意をもち、学生にとって満足度の高い授業を実施してきたということが以上の結果に示されています。肯定的な評価が 9 割に達しなかった項目については、全教員で指導方法や内容等の改善を早急に検討します。

後期授業評価『教員から学生の皆さん』

令和3年度後期の学生による授業評価に対して、教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 社会的養護Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

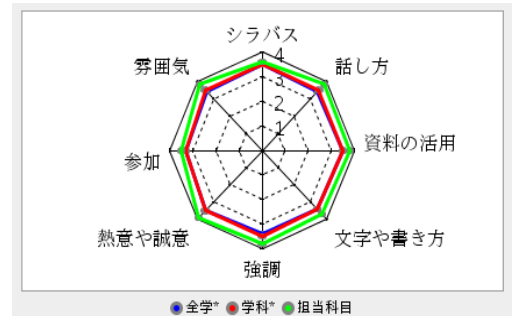
学生の皆さんからの授業における評価をいただき、今後も、「学びたい」気持ちに寄り添える授業を展開していきたいと感じた。

2. 今後の授業における目標

より分かりやすく、より深く、学生の皆さんが学びを得るための工夫を引き続き、検討していきたいと感じた。

3. 受講学生に対する要望

特にありませんが、学生時代は人生の中でも貴重な時期でもありますので、逆境を乗り越えて、たくましく、自分らしく、夢に向かって、歩み続けてください。



◆ 乳児保育Ⅱ

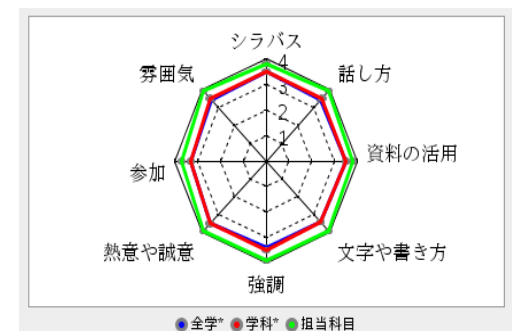
1. 授業評価の結果に対するコメント

大変高い評価を頂けたことが素直に嬉しいです。昨年度に続き今年度もコロナ禍で参加型の内容を控えなければならない中、おもちゃづくり、絵本作り、お手紙交換などの演習内容ができたこと学生のみなさんの健康についての心がけと協力があったこそだと感謝しています。

教員の取組に対する評価についてもどの項目もよかったのですが、むしろ皆さんに向けてお話する楽しみやさらなる学びを頂いていたのは私の方ではないかと今さらながらに思っています。コメントで毎回のフィードバックを自分の振り返りや学びにされている姿勢を知ることができました。益々AI化は進む中、私が大切にしたい手書きの振り返り用紙の価値をわかってもらえていると感じました。未満児へ寄り添う心、大人（保育士）との関わりや温もりは人が人になるための原点です。乳児保育Ⅰから継続して後期の15回を楽しく関心を持って取り組んでいただけたことを幸せに思います。

2. 今後の授業における目標

0,1,2歳児の発達を目をみはる早さです。その一つひとつは人間の一生を決めてしまうほどの重要なも



ので、育て関わる大人はそうしたことを知っていません。学生のみなさんは実際に我が子を出産・育児する経験のある人はほとんどなく、それでも子育てをする知恵や知識を専門職として学んでいく必要があります。

全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定で、来年度も感染の状況を見極めながら体験授業を取り入れる工夫したいと考えています。0, 1, 2歳の“未満児”と呼ばれる子どもに対して、“寄り添う”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し、実践できるようにしたいと思います。とくに“遊び歌”“わらべ歌”など1対1で遊ぶ保育技術をお伝えできるようにしたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

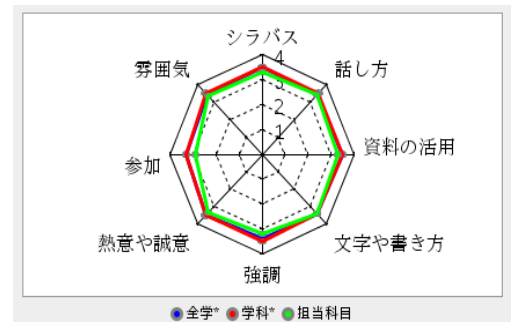
「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるようにして頂ければと思います。安全に対する配慮だけでなく、おらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分の持っている力を信じて、自分自身によいイメージを持って授業に臨んでほしいと願っています。

◆ 保育内容「環境」の指導法

1. 授業評価の結果に対するコメント

人的環境・物的環境の重要性、保育現場での活用方法、自然現象や社会の状況、季節や行事、子どもの言動など様々のことに「アンテナを張る」大切さを伝えたいと講義だけでなく、実際に体験を通して保育に役立つ内容に心掛けました。その中で「保育環境の大切さなどについて学び、重要性を改めて感じる事ができた」との声を聞くことができました。

しかし、コロナ禍で、幼稚園教育実習期間が変更になり、全員揃っての授業や体験活動を行うことが困難な状況であったことが残念であり、参加の部分（さつまいも掘りなど）でどうしても経験の差ができてしまったことを申し訳なく思っています。その中でも、参加できる部分は、積極的に行ったり、他学生から情報を得たりと前向きに学修する姿がみられ頼もしく感じました。



2. 今後の授業における目標

今後は、より具体的に理解ができるように、テキストを有効的に使用しながら、更に実践例を挙げた授業展開を心掛けていきたいと思っています。そして、楽しんだり、面白がったり、発見したり、驚いたり、感動を分かち合ったりしながら、保育者目線と子ども目線で配慮点や指導点、環境構成など様々な場面や保育を考えられる授業で学生の皆さんと共に学びを深めていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

コロナ禍での保育現場では、感染対策を取りながらも様々な工夫をして、子どもたちの学び・成長を促す保育・環境構成に取り組んでみえます。保育現場の思いも知りつつ、年齢や発達段階、子どもの実態に

沿った援助や環境について考えられる保育者を目指して、アンテナを張って情報を得て、更に学びを深めていってほしいと思います。

◆ 子どもの理解の理論及び方法

1. 授業評価の結果に対するコメント

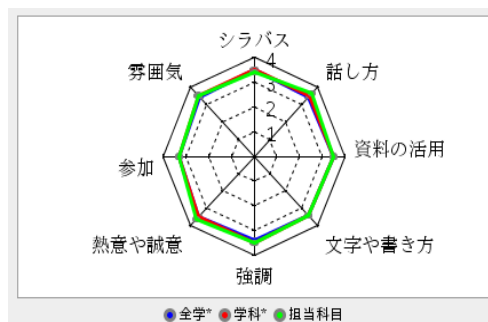
コロナ禍で対面での学生参加型のグループワークが少ない中、よく学んでくれたと感じる。しかしやはり学修の定着のためにもアウトプットができる授業内容を整えていきたいと思う。

2. 今後の授業における目標

今後は学生がグループワークに参加しやすい雰囲気をつくりながら、子どもの内面理解の視点をどのように深めればよいか共に考えていきたい。学生の声を拾い、広げる授業構成・内容の工夫を行っていきたいと思う。

3. 受講学生に対する要望

事例を基にしたエピソードトークから、学生の皆さんの理解が深まっているのが分かった。決して授業内で完結せず、保育現場に出てこそ活かせる内面理解と保育展開の知識と技能を身に付けられるよう、学生の事例も分析していきたい。



【 デザイン美術学科 】

◆ コミックイラストレーション基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

点数及び記述文について大いに参考になった。授業のブラッシュアップの為に大いに参考にしたい。

2. 今後の授業における目標

アンケート内容を真摯に受け止め満足度をより高める事を目標にしたい。

3. 受講学生に対する要望

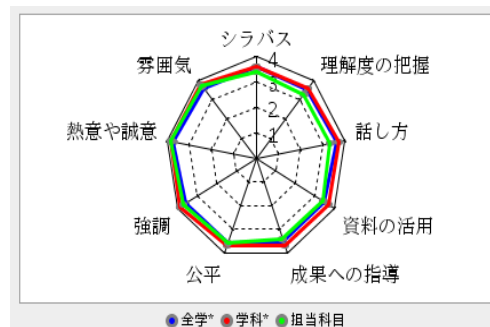
無し



◆ ウインドアンサンブル I C

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取り組みに対する評価」で「学ぶ」と「授業外」の得点が高く、真摯な態度で取り組んでくれた学生に感謝したい。学びの成果のコメントに合奏機会のありがたさというものがあった。教員の取り組みとして、「理解度の把握」や「成果への指導」が低かったところを反省したい。また、途中、喉を患い、大変聞き苦しい「話し方」の授業になってしまったことを切にお詫びしたい。



2. 今後の授業における目標

今年度も、コロナ感染症の影響で、学外演奏と定期演奏会が実施できないという、自分たちの演奏を聴いてもらうという一番大切な営みの欠如した1年であった。それでも、小学校の本番が1度だけ実施できたことは唯一の救いであった。本番を通じて改めて音楽を演奏することの意義を確認できた。また、授業の学修ノートにおいて、1年を通して取り組んだ「初見演習」に対する成果を実感することが出来た。社会活動として吹奏楽に参加するときに必ず役立つ技能であるので、今後も計画的に取り組んでいきたい。

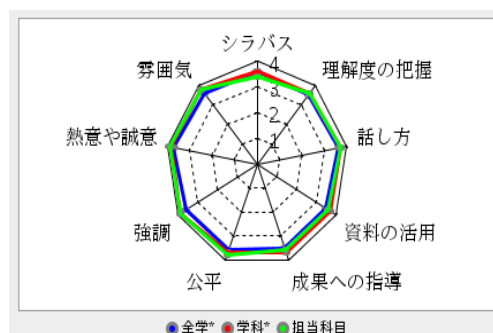
3. 受講学生に対する要望

来年こそ、学外演奏や、定期演奏会と発表の場が多くありますように。そして、その大切な発表のために計画的に準備を進めていきましょう。また、音楽には、答えは一つではなくたくさんあります。多様な音楽へのアプローチの仕方を学んでいきましょう。

◆ リペア特講 金管

1. 授業評価の結果に対するコメント

教員の取り組みに対する評価で、「強調」や「熱意や誠意」で3.9。「公平」「雰囲気」で3.8と高い評価を得たが、自由記述で、「授業がフリータイム化してしまった。」と記入があり、反省するべきと考えます。個々の進捗度の違いによって、早く出来てしまう学生には、フリーな時間が出来てしまい。別の課題を指示するべきだったと考えます。(その分、公平感は低下すると思われるが)「資料の活用」については、口頭での作業説明が多くなり、今後は、資料製作を取り組んでいきたい。「理解度の把握」については、その都度フィードバックを行ってきたつもりだが学生からの評価では低く、次年度に向け修正を考えたい。



2. 今後の授業における目標

シラバスについては、繰り返し見ると言う意識が薄いようで、これは、以前から同様な状態ですが、カリキュラムに対しての予習等が必要ですので、学生に対して何回も説明を行うしかないのかな。と思いま

す。実習が主となっていますから、当然、個々のレベル差が生じますが、個々のシラバスがあるものとし、公平感を継続して行きたいと思えます。

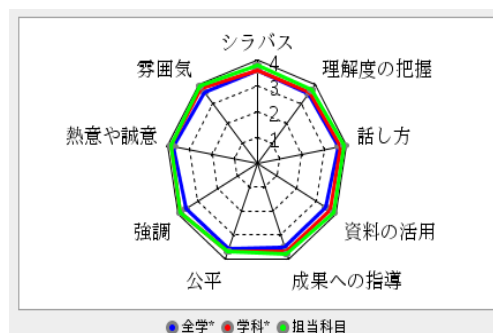
3. 受講学生に対する要望

特にありませんが、授業で完結する部分が少ないため、放課後等を有効活用して頂きたいです。

◆ リペア基礎（総合）Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組みについては、昨年よりも全ての項目に於いてポイントが上昇している。シラバスについては昨年より課題であったが、シラバスの重要性をわかりやすく説明し確認する習慣付けを意識した結果、定着してきているようだが全体の項目の中ではまだまだ低いのでシラバス部分については今後も取り組んでいきたい。授業外については昨年よりも大幅に良くなったので今後も引き続き時間を有効に使い時間外でも復習を行ってもらいたい、そのために時間外でも学生が気軽に質問できるよう今後工夫をしていきたい。



教員の取り組みについては、昨年の評価を受け授業全体の流れを再確認した結果、全体的に高い評価になっていた。今後も一人一人の性格を早く見極め、それぞれが苦手としている部分を見極め、それぞれに合った対応をし、より満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

2. 今後の授業における目標

今年度は、大人数での授業だったため不安もあったが授業全体を通して学生全員が前向きに取り組んでいたように感じた。今後も授業の雰囲気を大切に、より工夫を凝らし授業に集中できるような環境作りに努力したい。また引き続き、積極的に声を掛け学生のコミュニケーション能力を高め早い段階から意思疎通が出来るような関係づくりを心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

疑問などは積極的に質問し、早い段階で解決する事で技術力が付いていきます。また、覚えた技術を身に付ける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたい。

◆ 専攻器楽Ⅱ

(受講生少数のため、レーダーチャートなし)

1. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は、カワイピアノグレード取得に向けた授業で、そのための知識や技術を学び、グレード試験対策を行っています。受講して良かったところとして、グレード試験を受けるのに大切な知識や技術を学ぶことができた、グレード取得に向けた勉強がしっかりできた、グレード試験に向けての対策に十分に取

り組めたなどの記述があり、この授業で学生が自覚を持ってしっかりと学ぶことができていたことに嬉しく感じました。また、試験内容をバランスよく勉強できた、苦手なことも少しずつ吸収しできるようになっているなどの記述もあり、グレード取得という目標に向けて、全員が真摯に取り組んでくれていることにいつも感心し、感謝しています。

2. 今後の授業における目標

受講者が少人数ということもあり、一人ひとりの状況をしっかりと把握しながら、個々の力を伸ばしていけるように指導していきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

引き続き、それぞれの目標に向かって取り組んでほしいと思います。うまくいかず進みが停滞することもあるかもしれませんが、焦ることなく、一步一步着実に前に向かう気持ちで取り組んでもらえればと思います。一緒に頑張りましょう！

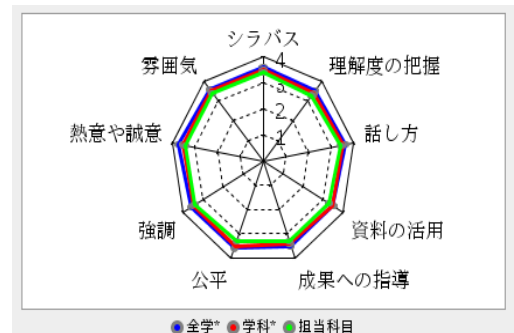
【 歯科衛生学科 】

◆ 口腔健康管理演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

「学生の自己の取り組みに対する評価」で学科平均値に比べ0.1~0.2ポイント低かった。なぜそのような結果になったのかは理由の記載がないためわからないが、いわゆる口腔のケアを主とした授業・実習のため少し他の実習に比べ力が抜けていたのかと考えます。

「教員の取り組みに対する評価」では、資料の活用と公平性が学科平均より0.2ポイント低かった。資料の活用は、新しい制度や処置についてテキストにないところを補うために使用しているが、配布量が多く分かりにくかったのではないかと反省します。公平性に関しては、実習を進めることに集中して、相互実習時に実技のアドバイスをした学生が少なかったように思います。このことがポイントに反映されたと考えます。



2. 今後の授業における目標

授業に対するコメントが無かったので、何かしら印象に残る授業を心掛けたいです。

3. 受講学生に対する要望

臨床実習登院前の能力試験等とても忙しい中の授業でした。臨床に出てすぐに求められる技術ではありませんが、将来必ず必要になる知識と技術です。この授業のなかで、患者さんに寄り添い、健康を守る使命があることを強調したつもりです。医療人として責任をもって口腔の健康を守っていく歯科衛生士になっていただきたいです。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

57名履修し、回答した人数が57名で、全員からの評価となりました。「総合評価」では、全学平均と同じでした。「自己に対する評価」では、ほとんどの項目が平均または平均以上でしたが、「知識や技術」が平均よりやや低く評価されていました。この科目は、知識を得てから、実際に口腔内で相互実習を行います。実技に不安な学生がいたのが原因かと考えます。初めての実習で緊張もするのは仕方がないかと思いますが、自信をもって実習が行えるように今後の授業でも考えていきたいと思っています。



「教員の取り組みに対する評価」ではすべての項目において、ほぼ平均でした。しかし、自由記述では「一人一人が技術をしっかり修得できるよう考え、1人あたりの実習時間を増やしてもらえてありがたかった」「技術をみがけ、身につくことが出来た」と答えてくれた学生がいた一方で、「実技試験で重要なところをもっと分かりやすく教えてほしい」と答えた学生がいました。毎回、協調して伝えていたし、掲示もしていたし、試験前は同じ形式で授業もしていましたが、伝わっていない学生もいたので残念に思います。

2. 今後の授業における目標

全員が同じ理解力ではないので難しいところではありますが、少しでも多く理解してもらえるように、分かりやすくかみ砕き伝えていきたいです。実技も授業内で修得できなかった場合、自主的に練習ができるようにもっと促していきたいです。

3. 受講学生に対する要望

授業以外でも質問があれば、どんどん聞いてほしいです。自主的に練習をしてほしいです。

◆ 保健指導法Ⅰ

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価については、昨年度は低い結果であったが今年度は全体と比較しても高い結果となりました。学生の皆さんが、授業前と授業後に知識や技術の修得のために頑張った結果だと考えています。また、この授業では「保健指導チャート」の作成を行います。ほとんどの学生が積極的に取り組み、期限内に遅れることなく提出することができていました。今後は、さらに学生の皆さんが自主的に授業内外で知識や技術の修得に取り組めるように工夫していきたいと思っています。



「教員の取組に対する評価」については、授業内ではポイントとなる部分については何度も繰り返す、強調するなどして学生に伝わりやすいように配慮しました。今後は、「成果への指導」や「理解度の把握」

などの点について授業内で伝えることができるよう工夫をする必要があると考えています。

学生の皆さんの習熟度を向上させるために、授業内で繰り返しの指導をするように工夫しました。授業で使用するスライドやハンドアウト、復習方法、計算問題に対する指導などの点について、学生の学修意欲の向上への一助となったことについては今後もさらに良くなるよう工夫をしていきたいと思っています。設問 17 のコメント欄にあります、「隔週になるので学習が定着しづらい」という点については、次年度以降になります改善することにしました。

2. 今後の授業における目標

できるだけ、授業内で確実に知識や技術などが修得できるようにタイムスケジュールを工夫する必要があると考えています。授業外での学修については、オフィスアワーの時間を活用して個別に対応することで、それぞれの学生の進行に沿った適切なサポートを行いたいと考えています。

「知識や技能」の取組については、動画などを活用してより理解しやすい授業展開を工夫します。学生の「理解度の把握」や「成果への指導」については、單元ごとの到達状況を把握して、その結果をフィードバックしながらより理解を深めていけるような授業の展開をすることとします。

3. 受講学生に対する要望

理解できないことがあれば、授業内外問わず質問をしてください。

【 非常勤講師 】

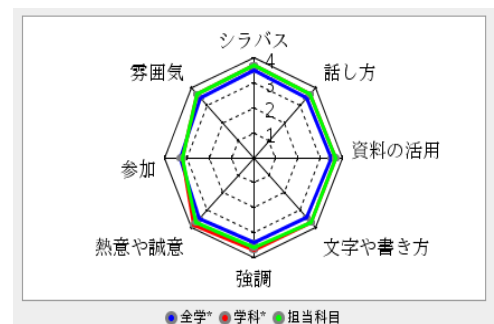
◆ 暮らしの科学 (物理・化学)

1. 授業評価の結果に対するコメント

【総合評価】は、全学、学科の評価より高く 3.7 であった。

【自己の取り組みに対する評価】では、5 項目すべてにおいて全学、学科の評価より同じもしくは高かった。

【教員の取り組みに対する評価】では、8 項目のうち 5 項目において全学、学科の評価より同じもしくは高く、「強調」の項目では、学科の値より 0.1 低く、「参加」の項目では全学の値より 0.1 低かった。全般的に好評であったのではないかと思うが、「強調」と「参加」に関して今後意識して講義に臨みたいと思う。



「設問 15：自由記述欄」においては、すべての内容が肯定的で新しい知識や知恵が身に付いたり、今後の生活の中で科学的視点で見直して生活したいなど本来のこの講義の目的をしっかりと実感してくれているようであり講義をするものとしては最高の充実感、達成感を感じている。学生さんの専門性から、理科、科学が苦手という意識の多い学生さんも多いと思われるがご自身の衣食住の生活そのものの内容であり自分自身の生活をよりよくすることができることを実感してくれているので意義あるものとなっていると思われる。今般の新型コロナウイルスに関する正しい知識も講義内容と密接に関わっているため【正しい知識のもと正しく理解し、正しく恐れ、正しく行動する】ことを常に伝えるとともに周りの学生さんや家族にも伝えていただける伝道師の役割を果たしていただけるよう重要事項を伝えること

ができた。

「設問 16：改善に関する自由記述欄」では、指摘はまったくなかった。昨年度は、講義内容は十分満足してくれていたようだが、文字が小さく見にくいとかプリントが多くて整理が大変などの意見があったが、今年度 3 年越しで教科書原稿を作成し発刊し利用したため、一冊の教科書ですべてが完結し内容もカラー写真やイラストも多く使用されさらには平易に理解できるよう文系の学生さんでもわかるよう厳選した言葉選びをして作成したため容易に理解できるようになり好評であったと思う。

2. 今後の授業における目標

今後も身近な話題を継続的に講義し、積極的に衣食住全般にわたって興味を持って思考し行動してもらえるようにしたい。日常生活を安全で有意義なものとしていただくとともに周りの学生さんや家族などに正しい知識を伝えてもらい社会にその知識と知恵を広げてもらえるような内容にしていきたい。

これまで何となく過ごしていた日常生活の出来事や事象が科学的な知見で説明できるような学生さんにしたい。また、身の回りの各種製品が科学的な知識や現象で企画開発されたことに改めて気づけるような内容を伝えていきたい。

その結果として安全で快適な生活が送れる人格となりそれらの正しい知見を広く周りの人々に伝えることができるような人物にしていけるような内容を伝え続けたい。

3. 受講学生に対する要望

とてもまじめな学生さんが多く、特にこれと言って要望する項目はない。特にコロナ禍のためマスクをし、私語は厳禁であることをはっきりと最初から伝えているため私語もなく静かに真面目に聞いていてくれる。一部の学生さんは居眠りしたり、他の講義のレポート作成などの内職をしたりしている学生さんもいる感じではあるが宿題等もしっかりやってくれており定期試験でも優秀な成績を収めてくれているので大人として判断の上での行動なので特に強くいさめるべき内容ではないとの認識である。

◆ 生涯スポーツⅡ

1. 授業評価の結果に対するコメント

- 「自己の取組に対する評価」3.2。「教員の取組に対する評価」3.3。どちらも平均値よりもやや低く反省点である。
- 設問 16 のコメントの記述からは、授業の目的となるところを掴んだ意見が得られた。
- 就職してから活用できるレクリエーションであったり、アレンジや進め方を学べたことを振り返ってくれたことは、強調してきたことを理解しての言葉だと感じる。
- 学籍番号順にしていた時は、成績に直接かわるときや演習でのグループは、特にそうしていたが、そうでないレクリエーション種目に関わる時は、違ったグループも意識していたのだが、そう感じてもらえなかったのが残念である。
- 計画が天候に左右されることがあったため、変更があったこと。また、実習日で多くの学生が休むことが分かったときには、内容を入れ替えることがあった。



2. 今後の授業における目標

- ・レクリエーションが、対象者に応じて、アレンジすることや提供の方法を変えることで、誰にでも対応ができることをしっかりと押さえ、卒業後の就職先での対象者に対応できるレクリエーション指導者を目指すことを理解させる。
- ・強い意見を言える学生だけに目を向けるのではなく、教員と学生、また、学生同士がコミュニケーションの取りやすい環境を作り、より快適な学びの場になることを目指す。

3. 受講学生に対する要望

- ・卒業後を視野に入れ、希望する就職先での対象者をイメージして授業受講を行うことで、レクリエーションがもたらす効果について、具体的にイメージでき、今後の活躍につながりやすくなる。理論的学習も活かし、対象者に適応するレクリエーションを選択し、指導できるレクリエーション指導者を目指してほしい。

本学の教職員は これからも
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。

総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和3年度後期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。

幼児教育学科	「社会的養護Ⅱ」 「乳児保育Ⅱ」
音楽総合学科	「リペア基礎(総合)Ⅱ」(2名) 「楽器奏法Ⅳ」